

高大の教員で共に作り上げる高大連携授業

今の学びを大学の学びにつなげるために

大阪成蹊女子高等学校・宇野美和 木谷英明 桜井督司

大阪成蹊大学・庄子博人 児山俊行 稲村昌南 田中浩子

本校は5年前から併設大学2学部・短期大学4学科と高大連携の取り組みを行ってきた。その多くは大学教員による出張講義や大学の授業を体験するといった大学の教員だけがその時間の学びを提供するものであった。そのような高大連携が多い中で、昨年度は高校2年生の履修科目「情報演習」において、併設大学マネジメント学部の教員と共に作り上げ、学びを提供する高大連携授業を行った。

1. はじめに

本校の高校2年生の履修科目である「情報演習」では、5年前から併設大学マネジメント学部の教員と共同で授業を行っている。

マネジメント学部には、スポーツビジネス・経営・メディアビジネス・食ビジネスの4コースがあり、高校2年生13クラスのうち4クラスに対し、1コースあたり10～12コマ（1コマ50分）の連携授業を行った。2013年度の高大連携授業の目的は、高校における学びが大学の専門分野、そして社会でどのように役立っているか知る機会の少ない高校生に対し、全てのコースに触れ、学びの大切さを理解してもらうことであった。

1.1 授業形態

週3時間のうち基本的に2時間（連続の授業）を大学教員が主となって授業を行い、残り1時間を高校教員だけで授業を行った。4コースとも大学でそれぞれの教員が教えている内容に基づいて、学問と社会との接点を感じられるような授業を行い、そこで提示した課題を高校教員が演習授業の内容として引き継いだ。全体を通して、生徒は単に一方向の講義を受けるのではなく、教員から時折される質問に関して、考え答えるといった対話的な授業になるよう心掛けた。また、授業中に提示される数々の課題に対して、2人ないしはグループで取り組む機会を多く設け、模造紙やパワーポイントだけでなく粘土やアプリなど様々なツールを用いて、発表や提案を行わせた。（図1）

上記のような対話的授業、生徒の活発なグループワークを行うためには、生徒の理解度を把握する必要があった。そのため高校教員による演習授業での生徒の活動報告を次週の講義に生かすために、担当の大学教員に必ず報告を行った。そして、

最終回の授業では必ずそのコースで学んだことをもとに発表を行った。

1.2 授業準備

各コース初めに大学教員と高校教員で約4週に渡る講義内容の打ち合わせを行い、難し過ぎる場合は変更してもらうことで、生徒にあった授業を展開するよう心掛けた。また大学教員と高校教員の授業中の役割分担を事前に明確にした。

また各週授業の前後では、様々な情報共有を行うためにGooleDriveを用いた。GooleDriveに高校教員の演習授業で作成させた生徒のレポートや作品をおくことで、大学教員は次週の授業までに生徒の理解度が把握でき、授業準備に反映できる。更には対話的授業展開にも役立ったと感じた。

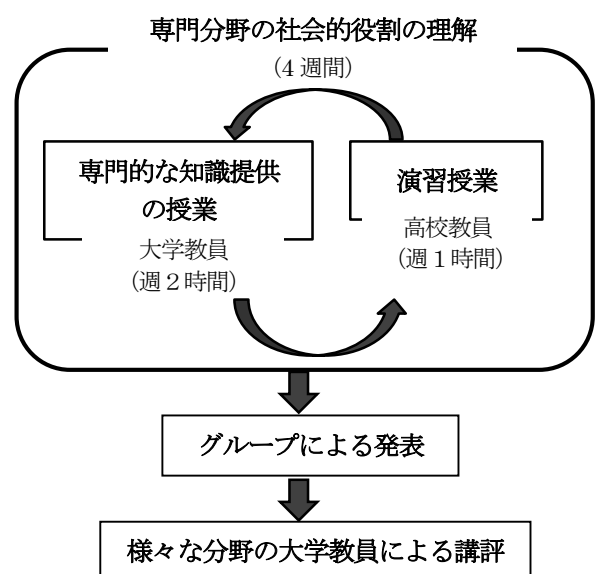


図1 授業形態と流れ

2. 授業内容

スポーツビジネス・経営・メディアビジネス・食ビジネスの4コースそれぞれに「スポーツの社会的役割を知る」、「枠にとらわれない自由な発想」、「あるといいと思うスマフォアプリを考えよう」、「食堂をカイゼンしよう!」というテーマを設定し、授業を行った。表1、表2はそれぞれ経営コース、食ビジネスコースの授業内容である。

それぞれのコースの授業内容は全く違うが、グループワークを多く取り入れ、専門分野を理解させることを試みた。評価や講評は大学、高校両教員で生徒に分かりやすいかたちで行った。(図2)

表1 経営コース授業内容

	テーマ(担当)	授業番号	授業内容
1週目	発想法を楽しもう(大学)	1	演習の目的をクイズ形式で学ぶ
		2	ブレインストーミングの基本を学ぶ
	教室の問題点を探そう(高校)	3	教室の問題点を探そう/振り返りシート作成(前回の授業内容を含む)
2週目	問題発見と問題解決(大学)	4	名札の問題発見
	ペアで互いの名札の評価(高校)	5	新しい名札の試作
3週目	最高と最低から考える(大学)	6	ペアで互いの名札の評価/振り返りシート作成(名札開発を含む)
		7	最高と最低の修学旅行を考える
	ユニークな修学旅行の発表(高校)	8	ユニークな修学旅行を考える
4週目	トランプで家を建てよう(大学)	9	発表と振り返りシート作成
		10	復習とお家づくりのルール説明
	振り返りとまとめ(高校)	11	家の建設とまとめ
		12	全体の振り返りシート作成

表2 食ビジネスコース授業内容

	テーマ(担当)	授業番号	授業内容
1週目	食ビジネスと情報(大学)	1	食ビジネスにおける情報の必要性
		2	学校の食堂とその他の飲食店の違いについて
	他校食堂のヒットメニュー(高校)	3	他の高校の食堂ヒットメニューについてインターネットで検索
2週目	マーケティングの視点で食堂をカイゼンしよう!(大学)	4	マーケティングとは何か
		5	「欲しいもの」を探る(食堂改善事例)
3週目	課題を整理して提案してみよう(大学)	6	自校の食堂で気づいたこと、気になることを書き出し、課題を整理する
		7	解決策を考えるプレゼンテーション
	発表準備(高校)	8	ロイロノートを用いてスライド作り
4週目	改善提案の発表	9	発表準備・発表・振り返り
		10	
		11	

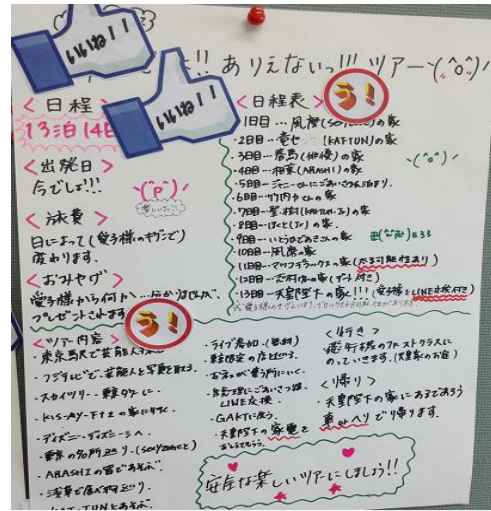


図2 生徒作品に対する評価

3. まとめ

4コースの高大連携授業では実践的なグループワークの授業を多く取り入れ、最終回に必ず発表を行ったということもあり、生徒たちはグループで課題に取り組み解決するということに対して、回を重ねるごとに抵抗がなくなっていった。また発表の講評を様々な大学教員にしてもらうことで、専門的な視点をもつことが出来るようになっていった。そしてなにより、グループで活動を行うことで、良い意味で役割分担ができ、互の良さを引き出し合い認め合えるようになったように思う。また打ち合わせと授業を重ね、コースによってはアンケートを取ることで、大学教員も高校生の理解するレベルを把握することができるようになり、内容は専門的であるけれども高校生もしっかりと取り組めるといった授業内容が展開されたと思う。高校教員にとっては、大学の各コースの授業内容を垣間見ることができたため、本校の併設短大・大学への内部進学率50パーセント以上という現状の中で、より具体的な進路指導を行えるようになったと思っている。

最後になりましたが、今回の高大連携授業を行うにあたり、多くの大学教員・高校教員の方々に多大なるご協力をいただいたことを心から感謝申し上げます。